

## 2026年5月24日(日) 第1礼拝「五旬節と聖霊」使徒の働き2章1~4節

イエス様が十字架につけられ、葬られ、よみがえられてから五十日後、聖霊がマルコの部屋に集まった人たちに臨まれました。それは、イエス様が「エルサレムを離れないで父の約束を待ちなさい。」と言われたその父の約束、聖霊のバプテスマです。

第一番目、五旬節です。五旬節の日になって、みなが一つ所に集まっていた時、聖霊が臨まれました。過越の祭りから種なしパンの祭り、初穂の束の祭りと続きますが、五旬節は過越の祭りから五十日目にあたります。五旬節の五旬は英語で *pente* (50) であり、聖霊が下られた日をペンテコステと言います。それは、収穫した穀物を主に捧げる日でもあります。旧約の最初のペンテコステは、シナイ山でモーセが十戒を頂きました。しかし、民は偶像崇拜をして十戒を破ったため、モーセは十戒の板を壊してしまいました。その意味は、私たちは素晴らしい神様の御言葉を知っているのに、それを守る力がないということです。パウロもまた、律法を守る力のない自分について「…だれがこの死の、からだから、私を救い出してくれるのでしょうか。私たちの主イエス・キリストのゆえに、ただ神に感謝します。」と言いました(ローマ7:24~25)。このような私たちのために、イエス様は罪の身代わりとなり、死んで葬られ、三日目によみがえり、過越の小羊とされました。そして、私たちに与えられた聖霊を通して、私たちは律法を守る力を受けたのです。

第二番目、聖霊のバプテスマです。聖霊のバプテスマは、聖霊が最初に来られた時を指します。聖霊が来られると、イエス様で満たされ、聖霊充滿になり、私たちの自我は死にます。その聖霊によって魂の収穫は可能になります。旧約のペンテコステでは、三千人が死にましたが、新約のペンテコステでは、三千人が救われました。イエス様が「エルサレムを離れないで…」と言われたのは、エルサレムには十字架があるからです。そこには、十字架の愛、父の涙が注がれています。すべての祭りはエルサレムで行われ、イエス様の十字架によって成就されます。足首まで、膝まで、腰まで、泳げるほど、聖霊充滿になるまで、そこに留まりなさいということです。その時には、自我は完全に無くなり、主の愛で満たされ、主にゆだねることができます。主の赦しの愛が注がれ、新しい心、新しい霊が与えられ、石の心(自我)が取り除かれます。主の霊によって私たちは十戒を守り行うことができるのです。

第三番目、聖霊が臨まれると力を受けます。力とは、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで証人となる力であり、王のような力です。「わたしの父がわたしに王権を与えてくださったように、わたしもあなたがたに王権を与えます。」(ルカ22:29) イエス様は洗礼の時、聖霊が鳩のように下られ、御父から「わたしの愛する子。わたしはあなたを喜ぶ。」と言われました。その聖霊の力と御父の愛とを受け、イエス様は宣教において王権を使われました。同様に、主が私たちに油を注がれ、王権を与えられたのは、貧しい人に福音を伝え、心の傷ついた人を癒し、虐げられている人を自由にし、盲人の目を開くためです。私たちは十字架の愛に満たされ、王権を使い、力をもって人々を自由にしましょう。